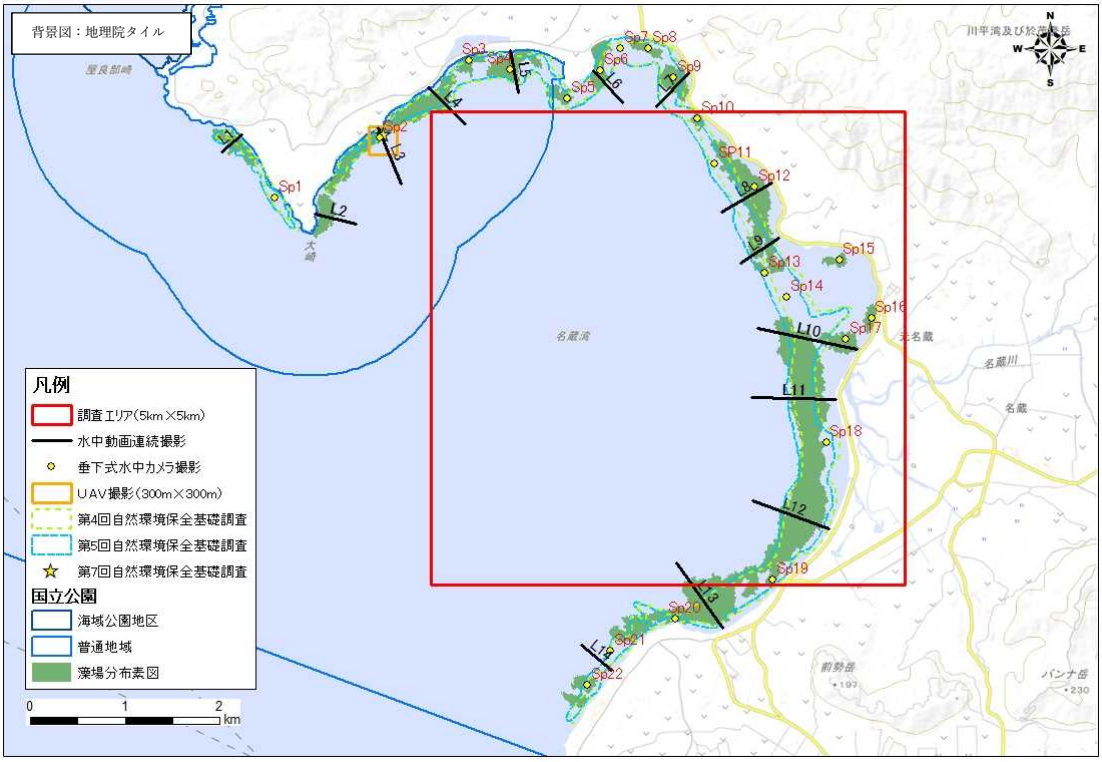
（１）調査海域名	南西諸島沿岸海区　名蔵湾
（２）調査海域の所在	沖縄県　石垣市　名蔵湾

（３）調査海域及び調査位置図

【調査位置図】



（４）調査位置の詳細（WGS84）

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点				沖側基点				測線長（m）
	緯度		経度		緯度		経度		
1	－	－	－	－	－	－	－	－	272
2	－	－	－	－	－	－	－	－	453
3	－	－	－	－	－	－	－	－	642
4	－	－	－	－	－	－	－	－	552
5	－	－	－	－	－	－	－	－	453
6	－	－	－	－	－	－	－	－	461
7	－	－	－	－	－	－	－	－	496
8	－	－	－	－	－	－	－	－	602
9	－	－	－	－	－	－	－	－	489
10	－	－	－	－	－	－	－	－	1,068
11	－	－	－	－	－	－	－	－	892
12	－	－	－	－	－	－	－	－	853
13	－	－	－	－	－	－	－	－	847
14	－	－	－	－	－	－	－	－	409
								測線長　計	8.5km

【垂下式水中カメラ撮影】

ｽﾎﾟｯﾄ番号	緯度		経度	
1	－	－	－	－
2	－	－	－	－
3	－	－	－	－
4	－	－	－	－
5	－	－	－	－
6	－	－	－	－
7	－	－	－	－
8	－	－	－	－
9	－	－	－	－
10	－	－	－	－
11	－	－	－	－
12	－	－	－	－
13	－	－	－	－
14	－	－	－	－
15	－	－	－	－
16	－	－	－	－
17	－	－	－	－
18	－	－	－	－
19	－	－	－	－
20	－	－	－	－
21	－	－	－	－
22	－	－	－	－

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲)】

撮影範囲	緯度		経度	
A	－	－	－	－
B	－	－	－	－
C	－	－	－	－
D	－	－	－	－

（５）調査年月日	令和元年 10 月 3 日、10 月 7～8 日（UAV 撮影：10 月 21 日）
（６）調査実施者	株式会社パスコ　野田　繁（調査責任者）

（７）調査海域の概要

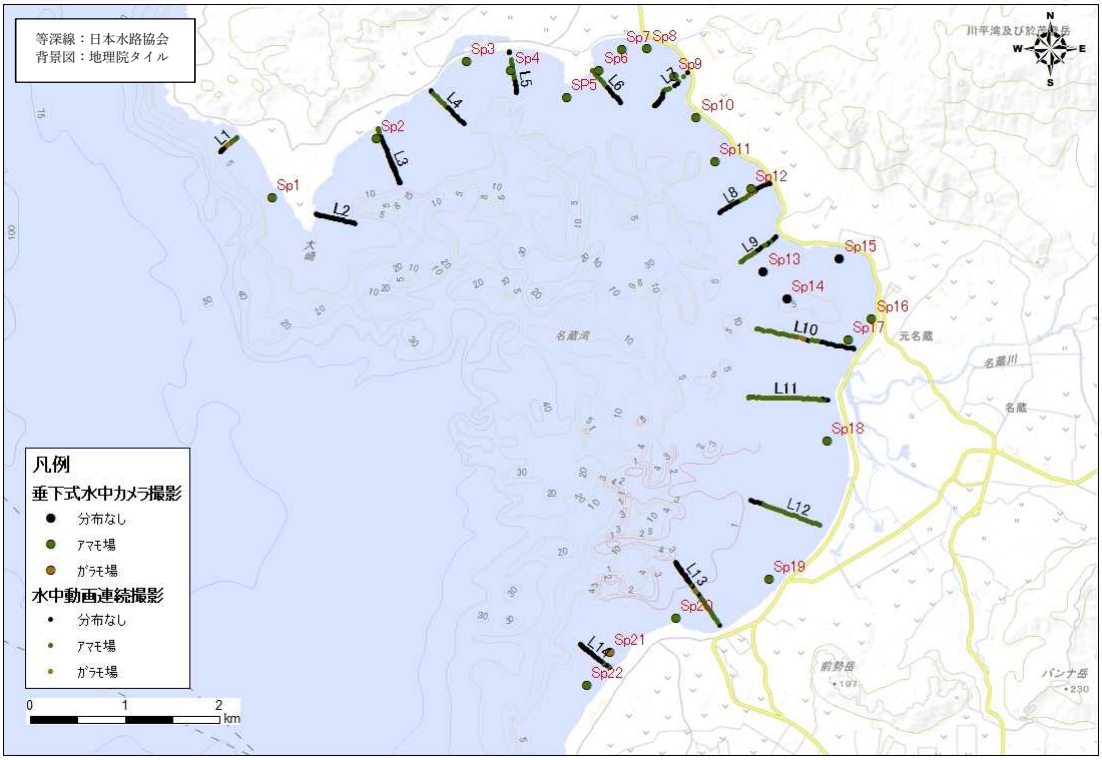
石垣島南西岸に位置する名蔵湾の沿岸は遠浅で、マングローブ林湿地が形成され、比較的静穏な海域である。第 7 回自然環境保全基礎調査（藻場調査）では、ウミショウブ、リュウキュウスガモ、マツバウミジグサの優占する大きなアマモ場が確認されており、この他にウミヒルモ、ウミジグサ、ボウバアマモ、リュウキュウアマモ、ベニアマモ、コアマモの分布が報告されている。また、第 4 回および第 5 回自然環境保全基礎調査では、名蔵湾の沿岸一帯にアマモ場の分布が確認されている。

現地調査は、石垣島の大崎から冨崎（観音崎）にかけての名蔵湾一帯にみられる藻場を対象として実施した。

本海域での高度 100ｍの年間平均風速は 8m/ｓ前後となっている（NeoWins（洋上風況マップ）：NEDO)。

（８）調査結果　①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：名蔵湾湾口大崎北側の調査測線、水深 D.L+0.4～-1.9m、底質は主に礫、砂・泥である。水深-0.1～-0.3mの範囲でホンダワラ類とアマモ類が混生しており、これより岸側の浅所ではアマモ類が密生～濃生の被度で分布していた。

測線 2：名蔵湾内北岸の調査測線、水深 D.L-0.2～-4.4m、底質は主に礫、砂・泥である。アマモ類、ホンダワラ類の分布はみられない。

測線 3：名蔵湾内北岸の調査測線、水深 D.L+0.3～-12.4m、底質は主に礫、砂・泥である。水深 0.3～-0.1mの浅所でアマモ類が密生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 4：名蔵湾内北岸の調査測線、水深 D.L+0.1～-3.2m、底質は主に礫、砂・泥である。水深 0.0～-0.3mの浅所でアマモ類が密生～濃生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 5：名蔵湾内北岸の調査測線、水深 D.L+0.7～-2.7m、底質は沖側では巨礫と礫、岸側は主に砂・泥である。水深 0.5～-0.4mの浅所でアマモ類が密生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 6：名蔵湾内北岸の調査測線、水深 D.L+0.6～-2.1m、底質は沖側では巨礫と砂・泥、岸側は主に礫、砂・泥である。水深 0.6～-0.1mの浅所でアマモ類が密生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 7：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+0.7 付近～-16.8m、底質は主に礫、砂・泥

であり、礫や岩盤の上に泥の堆積する状況もみられた。水深-0.6mより浅所でアマモ類が密生～濃生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 8：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+0.8～-4.0m、底質は主に礫、砂・泥である。水深 0.5～-0.3mの浅所でアマモ類が疎生～密生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 9：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+1.1～-0.3m、底質は主に砂・泥である。水深 1.1～-0.3mの範囲にウミジグサ属、ウミヒルモ属などのアマモ類が疎生～濃生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 10：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+0.7～-0.3m、底質は主に砂・泥である。水深 0.4～-0.3mの範囲にアマモ類が疎生～濃生の被度で分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 11：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+0.6～-1.2m、底質は主に砂・泥である。水深 0.6～-1.2mの広範囲にアマモ類が点生～濃生の被度で分布していた。

測線 12：名蔵湾内西岸の調査測線、水深 D.L+0.4～-1.1m、底質は主に砂・泥である。水深 0.4～-0.9mにウミジグサ属、リュウキュウスガモなどのアマモ類が密生～濃生の被度で広く分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 13：名蔵湾内南岸の調査測線、水深 D.L+0.2～-2.7m、底質は主に砂・泥である。水深 0.1～-1.2mにアマモ類が点生～濃生の被度で広く分布しており、ホンダワラ類の混生もみられた。

測線 14：名蔵湾内南岸の調査測線、水深 D.L+0.1～-2.1m、底質は主に岩盤、礫であり、岸地近くは砂・泥である。水深 0.0m付近にアマモ類が密生の被度で分布しており、水深 0.1m付近にはホンダワラ類が密生の被度でみられた。

アマモ場（測線 3）

アマモ場（測線 7）

（８）調査結果　②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影　調査結果一覧】

地点番号	水深 (D.Lm)	底　質	主要な藻類（種名・被度）	備　　考
Sp1	0.2	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類60%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp2	-0.2	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類+	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp3	0.1	礫、砂・泥	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類+	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓとﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp4	0.0	礫、砂・泥	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類60%	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓとﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp5	-0.1	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類30%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp6	0.3	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp7	0.7	砂・泥	ｱﾏﾓ類60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp8	0.7	砂・泥	ｱﾏﾓ類60%	
Sp9	0.6	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類30%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp10	0.1	岩塊・巨礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp11	-0.2	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp12	0.4	岩塊・巨礫、礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類60%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp13	0.7	礫、砂・泥	-	
Sp14	-7.1	礫、砂・泥	-	
Sp15	0.6	礫、砂・泥	-	
Sp16	0.7	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類30%	
Sp17	0.3	砂・泥	ｳﾐｼﾞｸﾞｻ属30%	
Sp18	0.2	砂・泥	ﾘｭｳｷｭｳｽｶﾞﾓ・ｳﾐｼﾞｸﾞｻ属・ｳﾐﾋﾙﾓ属30%	
Sp19	0.0	砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類10%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp20	-0.4	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類30%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場
Sp21	-0.4	礫、砂・泥	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類30%、ｳｽﾕｷｳﾁﾜ10%	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類とｳｽﾕｷｳﾁﾜの混生藻場
Sp22	-0.4	礫、砂・泥	ｱﾏﾓ類80%、ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類30%	ｱﾏﾓ類とﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類との混生藻場

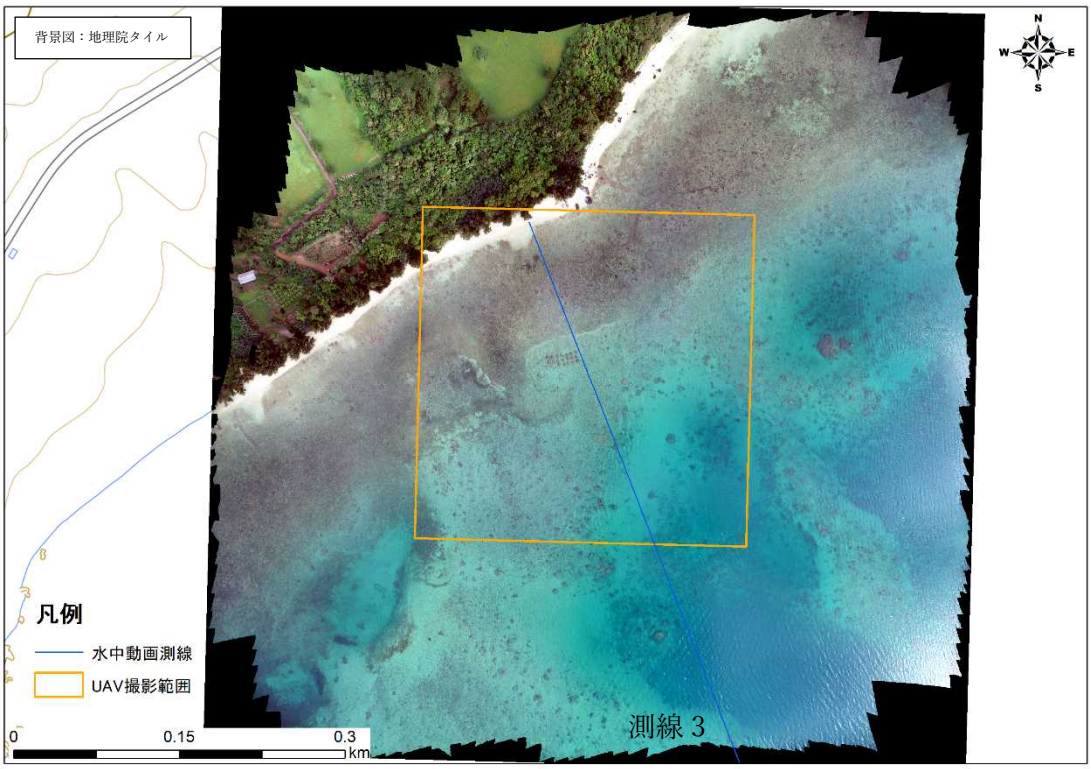
アマモ場（地点 1）

アマモ場（地点 22）

（８）調査結果　③UAV 撮影

【UAV 撮影結果　簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、撮影範囲（300×300m）内の岸側にアマモ場分布している状況が確認できる。

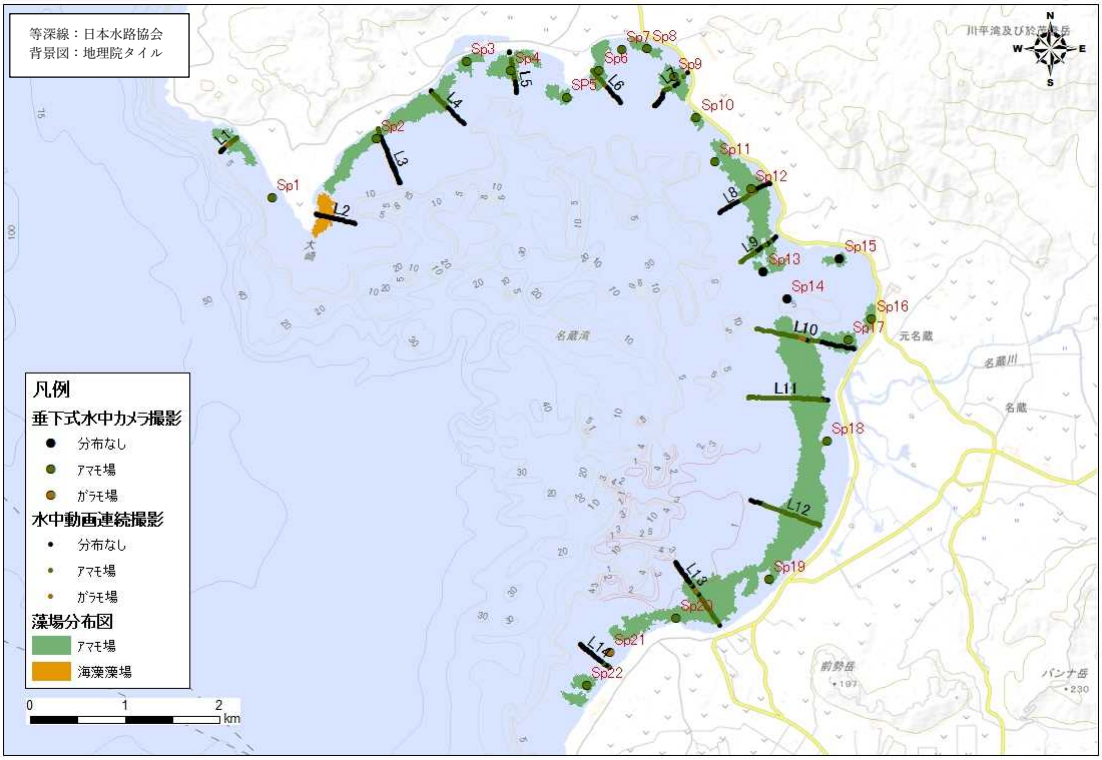


撮影時間	潮位(m)※	風向・風速	波高(m)	撮影高度(m)	備　考
9：00 ～9：19	D.L　1.30m	北 4m/ s	0.5 以下	149	

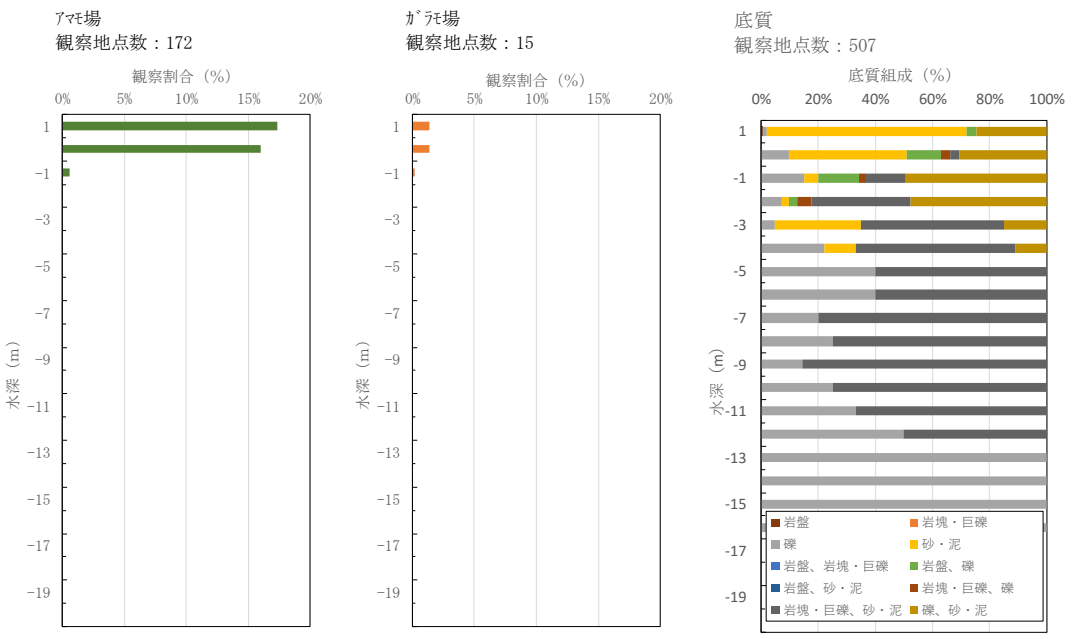
※潮位は、海上保安庁推算潮位の石垣（石垣島）10 時時点

（９）藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】



（10）まとめ
本海域は、石垣島の南西岸に位置する名蔵湾沿岸一帯の海域である。名蔵湾の湾奥（測線 9、10 付近）は沖 1 ㎞程度まで水深 D.L+0m程度であり、干潮時には広大な干潟が出現する。底質は礫、砂・泥であり、岸近くの浅所では砂泥干潟、マングローブとなっている。ウミジグサ属やウミヒルモ属、リュウキュウスガモなどのアマモ類が水深 D.L+0m付近の水深帯に密生～濃生の被度で広範囲に分布し、礫のみられる箇所ではホンダワラ類が混生している。湾口付近は底質に岩盤、礫が多くなり、ホンダワラ類が密生する状況もみられた。
（11）その他特記事項
藻場構成種としては、アマモ類ではコアマモやウミジグサ属などの明らかに葉が短く幅の細いタイプと、ベニアマモ、リュウキュウスガモなどの明らかに大きさの異なる種が水中カメラで確認されているが、ホンダワラ類ともに撮影画像では細部形態の確認が困難であったため種名の確定は行っていない。 ※　潮位補正は、海上保安庁推算潮位の石垣（石垣島）を用いた。